

環 境 経 営 し ポ ー ト

対 象 期 間

2023 年 4 月～2024 年 3 月

作成日 2024 年 4 月 15 日



株 式 会 社

サ ン メ イ

目次

環境経営方針	3
1. 会社概要	4
2. 環境マネジメント組織図	5
3. 環境経営目標(単年度兼中期目標)	...6～9
4. 環境経営目標結果に対する評価	...10～11
5. 環境経営計画の取組結果とその評価	...12～13
6. 環境関連法規などの取りまとめ	14
7. 経営における課題とチャンス	15
8. 代表者による全体評価と見直しの結果(全社)	16
9. 緊急事態対応の試行・訓練	17

環 境 経 営 方 針

《環境理念》

株式会社サンメイは、人が生活する上での3要素(衣、食、住)の中の住の分野である住宅関連事業を営んでいる。

本事業を進めるにあたり人類共通の問題である環境について国連が推奨するSDGsの重要性を認識し、積極的に取組み住宅事業に貢献する。

《企業理念》

私たちは自然の知恵を大切に活かし、人々のくらしやすさと次世代につながる住宅・もの作りを提供し、人々の楽しいくらし創りに貢献します。

《基本方針》

当社では、プレカット事業(第一工場)、及び住宅用内、外装部材の製造(第二工場)の生産活動の中で、消費する木材及び購入部材に使用されているダンボール、ビニール等の環境負荷を軽減する為に以下の環境への取組みを行う。

- ①二酸化炭素排出量の削減について、電力や燃料等の使用実績を把握して継続的削減を図る。
- ②産業廃棄物について、その発生量を削減すると共に、ゼロエミッション活動の維持、向上を継続的に行う。
- ③水の排水量削減について、常に節水と漏水の定期点検を行い、ムダを無くす。
- ④事務用品等について、再生紙や再生材料から作られた物を優先的に購入、使用して環境に配慮する。
- ⑤可能な限り製品の無包装を実施し、製品の輸送にはパレットや通い箱を繰り返し利用してサービスの効率化に取り組む。
- ⑥管理者は本方針を当事業所に従事する全従業員に徹底し、啓発を行い活動を継続的に遂行する。
- ⑦環境関連の諸法規を遵守する。
- ⑧上記項目を実行する為に環境改善に関する目標を可能な限り数値化すると共に、計画実践・評価・見直しを継続的に行うシステムを構築する。

制定日 2008 年 4 月 1 日

改訂日 2022 年 3 月 14 日

株 式 会 社 サ ン メ イ
代 表 取 締 役 社 長 佐 藤 則 明

■会 社 概 要

(1)事業者名及び代表者名

株式会社 サンメイ 代表取締役社長 佐藤 則 明

(2)所在地

茨城県笠間市稲田字白石 3888 番 23 (第一工場)

茨城県笠間市稲田字稲田字上ノ橋 3115 番 3 (第二工場)

(3)環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

第一工場 責任者 工場長 青 木 祐 章

担当者 環境管理責任者 照 井 傑

連絡先 TEL0296-70-3171 FAX0296-70-3173 E-mail terui@sunmei.co.jp

第二工場 責任者 工場長 寺 田 竹 男

担当者 環境管理責任者 田 村 幸 広

担当者 管 理 部 渡 辺 栄 美 子

連絡先 TEL0296-70-3656 FAX0296-70-3658 E-mail dai2@sunmei.co.jp

(4)事業の内容

プレカット事業及び住宅内外装部材の製造

(5)事業の規模

年 間 売 上 高 約 1,031 百万円 (第一工場及び第二工場 2023 年度合計実績)

従 業 員 数 22 名 (2024/3 月末日現在合計)

工場延床面積 1,155 m² (第一工場) 1,294 m² (第二工場)

(6)事業年度 4 月～翌年 3 月

■認証登録の対象組織

登録組織名 株式会社 サンメイ

活 動 内 容

ハウスメーカー各社対応プレカット加工 (第一工場)

住宅用内、外装部材の製造、販売 (第二工場)

■対象外組織

本 社 ・ 笠間営業所

活 動 内 容 ツーユーホームの組立て、部材加工

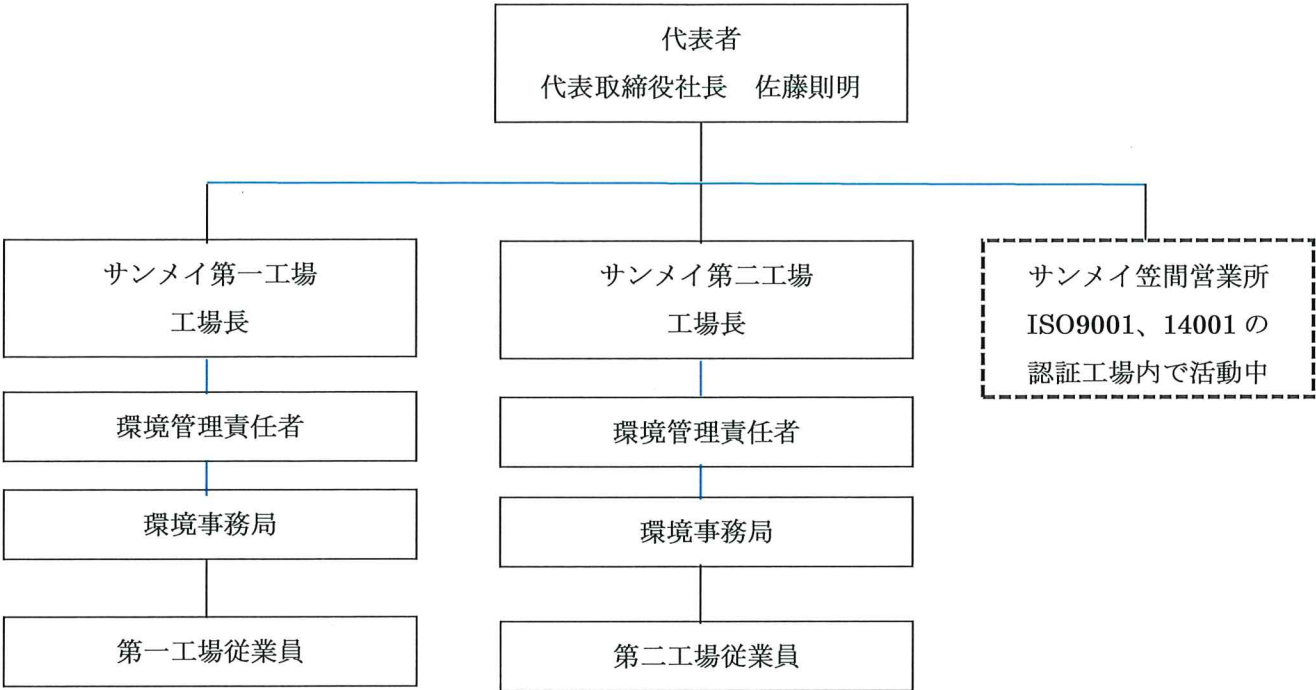
本社は登記上のもので事業活動はしておらず、社員も置かず当社の事務処理は全て笠間営業所で行っています
(笠間営業所は ISO9001、14001 の認証工場内(セキスイハイム関東工場)で活動しています。)

※環境方針と環境活動計画については、第一工場、第二工場共に共通ですが、業務内容が異なるために環境目標は別々に策定して、それぞれが評価しています。また、実施体制についても工場ごとに環境管理責任者を置いて取り組んでいます。

環境マネジメント組織図

2024 年 3 月末日現在

株式会社 サンメイ



第一工場 従業員数 11 名

第二工場 従業員数 7 名

役割・責任・権限	
代表者	・環境経営に関する統括責任 ・人、設備、費用の準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営レポート等の承認 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・課題とチャンスの設定
工場長	・工場運営に関する統括責任 ・代表者の補佐 ・環境経営レポート等の確認 ・人、設備、費用の分析
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポート等の確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐 ・環境関連資料の作成 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成、環境活動の実績集計
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性の自覚 ・決められたことを守り自主的・積極的に環境活動へ参加

改訂日 2019 年1月 15 日

環境経営活動取組(中長期活動目標計画) 基準年2016年:中長期間(2021～2024年) (株)サンメイ第一工場

活動項目	単位	参考年度	活動取組期間 (左下段:目標値 中下段:実績値)											
			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
		2017年度	2021年4月1日～2022年3月31日			2022年4月1日～2023年3月31日			2023年4月1日～2024年3月31日			2024年4月1日～2025年3月31日		
			削減率%	実績値	達成率%	削減率%	実績値	達成率%	削減率%	実績値	達成率%	削減率%	実績値	達成率%
電気使用量	kWh／年	336,787	4	114.7	110.2	5	135.0	128.2	6	154.3	145.0	7	#DIV/0!	#DIV/0!
			323,316	293,501	○	319,948	249,486	○	316,580	218,318	○	313,212		
軽油使用量	ℓ／年	9,000	4	121.7	116.8	5	154.8	147.0	6	186.9	175.7	7	#DIV/0!	#DIV/0!
			8,640	7,397	○	8,550	5,815	○	8,460	4,816	○	8,370		
二酸化炭素排出量	kg－CO2／年	182,865	4	0.0	104.0	5	102.1	159.1	6	150.5	173.1	7	#DIV/0!	#DIV/0!
			155,356	149,448	○	173,722	109,180	○	171,893	99,317	○	170,064		
産業廃棄物排出量	kg／年	2,460	4	－	－	5	－	170.6	6	－	－	7	－	－
			2,362	1110	○	2,337	1,370	○	2,312	1,210	○	2,288		
水使用量	m3／年	少量のため実績値把握に努める												
				47	○		45	○		34	○			

☆:排出係数は、0.398kg－CO2／KWh 2023年度の調整後排出係数 購入先東京電力エナジーパートナー(株)

目標計画の概要 サンメイ第一工場においては、2017年度から本格的な24時間稼働になった。それにより軽油使用量や産業廃棄物排出量の負荷が高まると予想された。基準年は2016年度ですが、24時間稼働になった直近の2017年度を参考にして、2018年度以降の目標値を算出しました。

※産業廃棄物排出量については、2017年から24時間稼働になったことを受け、それ以降の目標値を高めを設定しました。

※二酸化炭素排出量の目標値については、2017年以降の実績における電気及び軽油使用量などの目標値変更に伴い、基準値を182,865kg－CO2/年で算出しました。

※達成率の評価基準

達成率100%以上 ○ 達成率90%以上 △ 達成率90%未満 ×

2023年度環境活動実績及び評価と次年度の取組

2023年度(2023年4月1日～2024年3月31日)

活動項目	単位	参考年度	対象年度			原単位評価については、エネルギー原単位を指標として用い生産効率を把握しています。内容的には、電気使用量(KWh)を生産金額で除して指数評価しています。	
			2023年度				
		2017年度	2023年4月1日～2024年3月31日			当年度活動取組結果の評価	次年度取組(未達に対する取組の改善等)
			削減率%	実績値	達成率%		
電気使用量	kWh／年	336,787	3	154.3	148.1	LED灯の効果もあり、目標値は達成できている。	工場全体で節電意識の向上に努める。
			323,316	218,318	○		
軽油使用量	ℓ／年	9,000	3	179.4	179.4	フォークリフトの省エネ運転を徹底した。	フォークリフトのアイドリング禁止を徹底したい。
			8,640	4,816	○		
二酸化炭素排出量	kg－CO2／年	182,865	3	156.4	156.4	工場全体で温室効果ガスの削減に努めた。	節電、節水、省エネ運転に努める。
			155,356	99,317	○		
産業廃棄物排出量	kg／年	2460	3	1,370.0	—	前年に引き続き、材料を歩留りの上がるサイズに変更している。	端材の有償支給を徹底したい。
			2,362	0.0	○		
水使用量	m3／年	少量のため実績値把握に努める				水道の出しっ放しなどに気を付けた。	節水意識の向上に努める。
				34	○		

原単位評価については、エネルギー原単位を指標として用い生産効率を把握しています。内容的には、電気使用量(KWh)を生産金額で除して指数評価しています。

年度	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
生産金額／100万	1,035	1,067	912	1,099	685	1,564	1,553	734
電気使用量	387,100	336,787	286,471	300,986	261,978	293,501	249,486	218,318
電気量/金額	374.01	315.64	314.11	273.87	382.45	187.66	160.65	297.44
指数	1	0.84	1.00	0.87	1.21	0.59	0.51	0.94

※2023年度については指数0.94を基に各実績値を評価した場合、全ての項目で好結果を得ております。

今後も繁忙期と閑散期で、実績値や生産金額には波があるため、数値の分析に努めていきます。

環境経営活動取組(中長期活動目標計画) 基準年2020年:中長期間(2021～2024年) (株)サンメイ第二工場

活動項目	単位	参考年度	活動取組機関 (左下段:目標値 中下段:実績値)											
			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
		2020年度	2021年4月1日～2022年3月31日			2022年4月1日～2023年3月31日			2023年4月1日～2024年3月31日			2024年4月1日～2025年3月31日		
			削減率%	実績値	達成率%	削減率%	実績値	達成率%	削減率%	実績値	達成率%	削減率%	実績値	達成率%
電気使用量	kWh／年	87,359	1%	118.4	117.2	2%	126.4	123.8	3%	120.8	117.2	4%	#DIV/0!	#DIV/0!
			86,485	73,804		85,612	69,139	○	84,738	72,300	○	83,865		
軽油使用量	ℓ／年	7,578	1%	108.8	107.7	2%	126.6	124.1	3%	118.8	115.2	4%	#DIV/0!	#DIV/0!
			7,503	6,965		7,427	5,986	○	7,351	6,380	○	7,275		
二酸化炭素排出量	kg－CO2／年	63,621	1%	114.1	112.9	2%	127.1	124.6	3%	123.7	120.0	4%	#DIV/0!	#DIV/0!
			62,985	55,776		62,349	50,054	○	61,712	51,426	○	61,076		
産業廃棄物排出量	kg／年	128,180	1%	135.6	134.2	2%	185.6	181.9	3%	281.2	272.7	4%	#DIV/0!	#DIV/0!
			126,898	94,550		125,616	69,070	○	124,335	45,590	○	123,053		
水使用量	m3／年	少量のため実績値把握に努める												
				79	○		64	○		65	○			

☆:排出係数は、0.398kg－CO2／KWh 2023年度の調整後排出系数 購入先東京電力エナジーパートナー(株)

全活動項目に於いて目標を達成出来ている。引き続き次年度も達成出来るよう努力していきます。

※達成率の評価基準

達成率100%以上 ○ 達成率90%以上 △ 達成率90%未満 ×

2023年度環境活動実績及び評価と次年度の取組

2023年度(2023年4月1日～2024年3月31日)

活動項目	単位	参考年度	対象年度			原単位評価については、エネルギー原単位を指標として用い生産効率を把握しています。内容的には、電気使用量(KWh)を生産金額で除して指数評価しています。	
			2023年度				
		2020年度	2023年4月1日～2024年3月31日			当年度活動取組結果の評価	次年度取組(未達に対する取組の改善等)
			削減率%	実績値	達成率%		
電気使用量	kWh／年	87,359	3%	117.2	117.2	前年に引き続き生産効率をアップさせたことにより、目標を達成できた。	工場全体で節電意識の向上に努める。
			84,738	72,300	○		
軽油使用量	ℓ／年	7,578	3%	115.2	115.2	段取り作業のムダどりを進めて使用量の軽減に繋がった。	輸送回数を軽減する活動に取り組む。
			7,351	6,380	○		
二酸化炭素排出量	kg－CO2／年	63,621	3%	120.0	120.0	工場全体で温室効果ガスの削減に努めることができた。	節電、節水、省エネ運転に努める。
			61,712	51,426	○		
産業廃棄物排出量	kg／年	128,180	3%	272.7	272.7	端材の再利用先の新規発掘が出来、排出量の削減に繋がった。	引き続き歩留りの向上を徹底して、排出量の削減に繋げていく。
			124,335	45,590	○		
水使用量	m3／年	少量のため実績値把握に努める				水道の出しっ放しに気を付けた。	日常管理の充実化を心掛けて、異常を見逃さない体制を作る。
				65	○		

☆:排出係数は、0.398kg-CO2/KWh 2023年度の調整後排出系数 購入先東京電力エナジーパートナー(株)

原単位評価については、エネルギー原単位を指標として用い生産効率を把握しています。内容的には、電気使用量を生産金額で除して指数評価しています。

年度	2020	2021	2022	2023
生産金額/100万	427	330	292	297
電気使用量	87,359	73,804	69,139	72,300
電気量/金額	204.59	223.65	236.45	243.60
指数	1	1.09	1.16	1.19

※2023年度は、熱中症対策としてスポットクーラー及び分電盤を増設した影響で電気使用量が上がってしまったと思われる。

電気料金に於いても基本料金が改定されたため高騰。

引き続き従業員全員の意識向上と生産性を高め使用量や廃棄物削減の努力して行きます。

■環境経営目標結果に対する評価

◆サンメイ笠間第一工場

(1) 電力使用量においては、2016 年度途中からの実績値の推移を精査し、今年度は 316, 580kWh に目標値を設定した。2023 年度は年間を通して 218, 318kWh であった。

今年度の生産量は住宅着工数の減少に伴い、12, 495 坪という結果だった。

工場全体の節電意識の向上に努め、電気使用量は目標を達成できた。

(2) 軽油使用量においては、2018 年度に目標値を再検討している。今年度については 8,460ℓに設定した。

2022 年度が 5, 815ℓ、2023 年度は 4, 816ℓであった。

生産量が減ったことを加味しても、フォークリフトの軽油量は去年より削減できたと思われる。

引き続きフォークリフト使用中のアイドリングの原則禁止、そして安全運転の周知徹底を図っていきたい。

(3) 二酸化炭素排出量においては、2017 年以降の実績における電気及び軽油使用量などの目標値変更に伴い、基準値を今年度 171, 893 kg-CO2/年で算出した。2023 年度は 99, 317 kg-CO2/年であった。

二酸化炭素排出量も生産量が去年と同程度であったわりには、大幅に削減することができた。

(4) 廃棄物排出量においては、これまでの実績値を基にして今年度 2,312 kgに目標値を設定した。

2023 年度は 1,210 kgであった。

引き続き、仕入れる材料を歩留りが上がるサイズに変更するなどの改善を進めている。

短い寸法の製品については、出来るだけ余っている端材を再利用している。

環境への配慮だけではなく、材料費のコストカットに繋げている。併せて、製品を梱包する際の結束バンドや防水シートなどは出来るだけ再利用しているので今後も続けていきたい。

■環境経営目標結果に対する評価

◆サンメイ笠間第二工場

- (1) 電力使用量においては、目標の 84,738kWh に対し年間使用量は 72,300kWh となり目標を達成できました。

2023 年度の生産量は前年比の 5%のマイナスでした。今後の生産量の推移を見ながら加工機を生産方法を変更して、加工機の稼働を定期的に停止させる取り組み方など様々な手段を検討して使用量削減に工場全体で努めていきます。

- (2) 軽油使用量においては、目標の 7,351ℓに対し使用量は 6,380ℓとなり目標を達成できました。

前期はフォークリフトの使用を減らす活動を進めてきましたが、段取りを見直す改善では良い結果が得られました。今後は、フォークリフトの運転については安全運転の徹底を進めるとともに輸送に於いては輸送回数を軽減する活動を進めていきます。

- (3) 二酸化炭素排出量においては、目標の 61,712kg-co2 に対し 51,426kg-co2 となり目標を達成できました。

一部の加工機では、日々の生産から1～2回/週に生産方法を変更して無駄取り改善を推進し設備の稼働時間の管理を進めてきました。

- (4) 廃棄物排出量においては、目標の 124,335kg に対し排出量 45,590kg となり目標を達成できました。

作業者が入れ替わる事によって廃棄物の量がかなり変わるため、加工品に対してはカット方法の指導教育とマニュアル化を進め、端材の処理方法としては他の製品に転用して再利用を行いました。

■2023 年度環境経営計画の取組結果とその評価

サンメイ笠間第一工場

環境経営目標		実施事項	取組結果	評価コメント
二酸化炭素排出量削減	電気	休憩時間や昼休み時の消灯の徹底	○	従業員全員で節電をしながら取り組むことができた。 フル稼働が必要な時と、生産調整が必要な時で、稼働時間を縮小し、バランス良く工場の生産を行った。
		残業を減らして消費電力を削減する	○	
		作業終了後は、速やかに使用している機械機器・照明のスイッチを切って節電を行う	○	
	軽油	フォークリフトの稼働時間を減らして、アイドリングをしない	○	定期点検をしてもらい、常にフォークリフトが万全な状態を維持した。
廃棄物排出量削減		廃棄物の分別の細分化を進め、再資源化・熱源回収化を更に進める	○	図面や書類などを、常に裏紙で使用するによりコピー紙の使用量削減に努めることができた。 出来るだけ、ペーパーレスを意識して書面で出す必要が無いものはデータだけで処理をして業務をこなした。
		廃棄物の有料化をこれからも進めていく	○	
		仕入部材に付随するビニール類を分別処理して再資源化を実施する	○	
水道使用量削減		水道の蛇口を絞って流量を少なくして使用する	○	工場内での水の使用は特に無かったが、事務所内での節水は従業員全員で取り組むようにした。
		定期的に漏水の点検を行う	○	
サービスの効率化		製品の無包装を実施して可能な限り環境に配慮する	○	例年どおり、月に一度、従業員一人一人がサービスの効率化に繋がる改善案を挙げるようにした。 従業員全員で意識をして取り組めた。
		出荷品の積載効率を高めて配送回数の省力を検討する	○	
		在庫管理を更にシステム化して適正在庫を守り仕入のムダを無くす	○	

評価基準： ○実施した △どちらとも言えない ×あまり実施できなかった

■2023 年度環境経営計画の取組結果とその評価

サンメイ笠間第二工場

環境経営目標		実 施 事 項	取組結果	評価コメント
二酸化炭素排出量削減	電気	休憩時間や昼休み時の消灯の徹底	○	使用していない加工機周りの照明の消灯、休憩時の加工機や集塵機の電源をシャットダウンの徹底が良く出来ていた。 残業時間も短縮し消費電力の削減に繋がった。
		残業を減らして消費電力を削減する	○	
		作業終了後は、速やかに使用している機械機器・照明のスイッチを切って節電を行う	○	
	軽油	フォークリフトの稼働時間を減らして、アイドリングをしない	○	台車の活用とフォークリフトによる段取り回数の削減に努めた。
廃棄物排出量削減		廃棄物の分別の細分化を進め、再資源化・熱源回収化を更に進める	○	端材の再利用を進め廃棄物削減に繋がった。 工場内で使用する指示書などは裏紙を使用しコピー紙の削減に努めています。 再資源可能なダンボール類や紙類などの分別を従業員全員が理解し仕分け出来ている。
		廃棄物の有料化をこれからも進めていく	○	
		仕入部材に付随するビニール類を分別処理して再資源化を実施する	○	
水道使用量削減		水道の蛇口を絞って流量を少なくして使用する	○	工場内での水の使用は特に無かったが、事務所内での節水は従業員全員で取り組むようにした。
		定期的に漏水の点検を行う	○	
サービスの効率化		製品の無包装を実施して可能な限り環境に配慮する	○	供給先ごとにパレットを分け運搬や供給者に配慮を行った。 部材発注は使用数をデータ化し日々使う分だけに発注を行った。
		出荷品の積載効率を高めて配送回数の省力を検討する	○	
		在庫管理を更にシステム化して適正在庫を守り仕入のムダを無くす	○	

評価基準： ○実施した △どちらとも言えない ×あまり実施できなかった

■環境関連法規などの取りまとめ

①環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価（評価日 2024 年 3 月 1 日）

法令等の名称	主な内容	遵守評価
廃掃法 （両工場共通）	マニフェストの管理、契約書等の確認	○
消防法 （両工場共通）	危険物取扱、施設点検の遵守及び各届出	○
浄化槽法 （両工場共通）	指定業者による保守点検等	○
振動・騒音規制法 （両工場共通）	特定施設の届出、規制基準の遵守	○
家電リサイクル法 （両工場共通）	エアコンのリサイクル料金の支払い	○
パソコンリサイクル法 （両工場共通）	パソコンのリサイクル料金の支払い	○
自動車リサイクル法 （両工場共通）	廃車時の支払い	○
フロン排出抑制法 （第一工場）	有資格者による定期点検の実施など	○
合法木材に関する 法律（第一工場）	原材料における取引業者への認定書の確認など	○
オフロード法 （両工場共通）	特定特殊自動車の排出ガス基準を満たしている かなど	○

※遵守についてはしっかり記録され守られている。

②違反、訴訟等の有無

過去 3 年間の活動において、廃掃法、消防法、浄化槽法、振動・騒音規制法等の違反については関係機関から特に指摘等は無かった。また、訴訟等も同様に 1 件も無かった。

■経営における課題とチャンス

(株)サンメイは、2023年度の経営における課題とチャンスを以下のように分析し、これらを環境への取り組みに反映させた。

強 み (Strength)	弱 み (Weakness)
1. 主要な顧客とは長い取引関係があり、売上高が比較的安定している。 2. 顧客との人的交流も過去から継続しており、技術レベルの向上が図れる。 3. CAD設計から工場生産まで一貫して行える。	1. 主要な顧客との取引高が全体の多くを占めており顧客の業績良し悪しが自社の業績に直結する。 2. 正社員及び派遣社員の定着率が低く、人材不足である。 3. 作業現場レイアウトに余裕がない。
機 会 (Opportunity)	脅 威 (Threat)
1. 営業力を強化し、多方面で新規受注が獲得できる。 2. 人材育成システムを分析し社員定着率を向上させる。 3. 顧客の要望に応じて、信頼と品質を向上させる。 4. 一貫体制を武器に同業他社との差別化を図る。	1. 顧客からのコストダウン依頼 2. 仕入先からの原材料費の上昇 3. 多品種小ロットなど、ニーズの多様化に対応しなければならない。 4. 人材不足による生産性の低下及び後継者不足 5. 近年稀にみる世界での木材需要過多によるウッドショックが発生。しかし、幅広い仕入先とのネットワークを駆使し、生産量への影響は最低限で済んだ。

■2023 年度 代表者による全体評価と見直しの結果(全社)

項 目	見直しの有無	評価コメント
環境経営方針の見直し	無	環境に対する負荷の低減を更に意識しながら、全従業員に周知徹底を図っていくこと。
環境経営目標の見直し	有	中長期活動目標をこれまでの実績を踏まえ、また排出係数を最新化し、「経営における課題とチャンス」を勘案して作成してもらいたい。
環境経営計画の見直し	無	休憩時間の消灯、残業ゼロ活動の徹底、廃棄物削減の強化など常に節水、節電の意識を高めながら活動していくこと。
教育訓練計画の見直し	無	今後も定期的に環境についての改善、管理等のミーティングを重ねながら実施していくこと。内容に関しては現在のままで問題ないとする。
環境経営マニュアルの見直し	無	エコアクション21ガイドライン 2017 年版を基に、マニュアルの見直しを図り、改善に繋げてもらいたい。

■ 緊急事態対応の試行・訓練

件名	火災訓練(通報、消火、避難の訓練) 全員参加
緊急事態の想定	作業中の火災事故
状況設定	1号機のドリルモーター付近より出火し、おが屑に燃え移った。
準備物	消火器、バケツ、ホース、マスク、軍手、救急薬品
テスト後の評価、 検討	通報、消火、避難の順に連続して実行した。それぞれ決められた役割を遂行できた。
手順書の改訂	今回は特に改訂事項はない。
確認事項	発生から終了まで予定通りに実行できた。

■ 外部からの環境上の苦情・要請等

特にありませんでした。